

10月7日 土 — 11月14日 火 福岡アジア美術館 水曜 午前9時30分 — 午後6時 (金曜・土曜は8時) 休館 最終日は4時まで

主催：水俣フォーラム／共催：西日本新聞社／後援：福岡県・福岡市 水俣市・福岡県教育委員会・福岡市教育委員会 朝日新聞社・毎日新聞社・熊本日日新聞社・NHK福岡放送局・九州朝日放送・RKB毎日放送・TNCテレビ西日本・FBS福岡放送・テレQ・共同通信社・時事通信社／特別協賛：グリーンコープ／協力：福岡アジア美術館

水俣・福岡展

MINAMATA Fukuoka Exhibition 2023



一家全員水俣病で家庭は崩壊したが、
純粹無垢な笑顔を絶やさなかった胎児性水俣病の半永一光。

Photo by Takeshi Shiota 1969

命は美しい。

開催にあたって

水俣病は海外でも知られる大規模な環境汚染事件です。その発生に人類が気付いてすでに70年近くになりますが、現在でもなお解決したとは言えません。それは、第一に汚染地域の全住民健康調査さえなされないまま補償をめぐる争いが続くからであり、第二にこの事件同様の加害構造と被害の放置拡大を指摘される事態が福島などで繰り返されているからであり、第三に原因物質の有機水銀による健康影響が次世代を含む全世界で危惧される状況にあるからです。このような中で私たちは、30年近く前から水俣病についての展覧会を全国各地で続けてきましたが、この事件の舞台となった南部不知火海沿岸から遠くない福岡の地で、コロナ禍が収束を迎えたこの時期、10年ぶり2度めの水俣展を開催します。被害民の言葉と姿にあふれる会場で、そのメッセージをどうぞお受け取り下さいますようお願い申し上げます。

2023年7月 水俣フォーラム

水俣展の鑑賞をおすすめします

秋葉忠利(元・広島市長)

秋吉敏子(ジャズピアニスト)

池澤夏樹(作家)

石井妙子(ノンフィクション作家)

いとうせいこう(クリエイター)

伊藤比呂美(詩人)

上野千鶴子(家族社会学)

大石芳野(写真家)

奥田愛基(元・SEALDs)

小田和正(ミュージシャン)

嘉田由起子(前・滋賀県知事)

金子勝(経済学)

上條恒彦(歌手、俳優)

香山リカ(精神科医)

姜尚中(政治学)

北川フラム(アートディレクター)

甲野善紀(芸術家)

小宮悦子(キャスター)

小室等(ミュージシャン)

是枝裕和(映画監督)

澤地久枝(作家)

潮谷義子(前・熊本県知事)

高橋源一郎(作家)

竹下景子(俳優)

田中優子(元・法政大学総長)

寺脇研(映画評論家、元・文科省)

長倉洋海(写真家)

中村桂子(JT生命誌研究館)

萩尾望都(漫画家)

平田オリザ(劇作家)

P・バラカン(ブロードキャスター)

水戸岡鋭治(デザイナー)

森まゆみ(作家)

森岡正博(倫理学)

山田太一(脚本家)

山田真(医師)

以上、50音順

協賛：九州大学大学院人間環境学府・西南学院大学ことばの力養成講座・九州大谷短期大学・熊本大学人社系国際研究センター学際領域・福岡県生協連・労協ワーカーズコープ九州・福岡・佐賀民医連・雁の巣病院・チェルノブイリ医療支援ネットワーク・つながろう・アースフレンズ・部落解放同盟福岡県連合会・人間学研究会・連合福岡・自治労福岡・福岡県教組・福岡県退職教職員協会福岡支会・カトリック福岡司教区・福岡バプテスト連合社会委員会・真宗大谷派九州教区・浄土真宗本願寺派栗田山覚永寺・創価学会平和委員会・つくしの観光バス・グリーンクラブ・ティグレフォーラム・アマタホールディングス・エックス都市研究所・環境構想研究所

展示——水俣病事件の事実は現代日本に何を物語るのか。リニューアル初公開。

■ メイン展示………悲しみの底に何が見えるか

プロローグ:1956年4月、幼い少女を「奇病」が襲った

クロニクル:映像でたどる水俣病と私たちの67年

展示1:水俣の美しい自然・豊かな風土

展示2:水俣病とは何か

展示3:水銀はなぜ止まらなかったのか

展示4:被害者は何を求めたのか

展示5:その後の水俣と水俣病事件

エピローグ:「彼岸の^{まどい}団欒を垣間みる」石牟礼道子

■ 患者遺影………死者たちが来場者を見つめる

「水俣」シリーズで知られる記録映画作家・土本典昭夫妻が1年間水俣に滞在。所在が判明した800軒の遺族を訪ね遺影を収集。その後の患者家族による収集とあわせて500影を空間一面に展示。

■ 実物展示………残された物こそ雄弁に語る

水俣病発症量のメチル水銀

水俣湾の海底にあった高濃度の水銀ヘドロ

患者が半年間で服用した薬のカラ

水俣湾に張られていた汚染魚仕切網

患者の面会を阻むチッソ設置の本社入口鉄格子(一部)

チッソ(現JNC)製の素材を用いた現在の商品など

■ 美術展示………事実は表現されて真実となる

丸木位里・丸木俊「水俣の囃」レプリカ

中村正義「何処へいく」「おそれA」「おそれB」レプリカ

中村一美「水俣」レプリカ

■ 写真展示………レンズが失われた声を聞いた

W.ユージン・スミス+アイリーン・M.スミス

桑原史成「水俣病・原点から」

塩田武史「水俣・深き淵より」

芥川仁「水俣・厳存する風景」

■ 展示説明会

専門の説明員や研修を受けたボランティアが順路に沿って40分ご案内します。開始は毎日午後1時10分、4時10分から。加えて、土曜・日曜・祝日は午前10時10分から、金曜・土曜は午後6時10分から開催します。ただし、初日の午前は9時半から。定時以外の説明をご希望の団体は前日までにお申し込み下さい。

■ 水俣病ブックフェア………さらに深く知るために

ノンフィクションはもとより文学作品、写真集、学術書、文庫、新書、児童書、絵本など、もっと知りたい方のために、一般書店ではなかなか手に入らない水俣病の本とDVDなど、200点を集めて販売。貴重・廉価な古書や宅配便の取り扱いも。

■ 水俣物産展………モノを通して暮らしと志が出会う

患者家族が漁り作った無添加のいりこ、ひじき、あおさなどの海産物、患者運動を支えた低農薬の甘夏で作ったマーマレード、以前は産地水俣を伏せた無農薬茶、海を汚さない安全な廃食油せっけんほか。

ナイトミュージアム

毎週金曜・土曜は夜8時まで展示をゆっくりご覧いただけます。休日のご都合の悪い方、お仕事の後にご鑑賞下さい。



街の中心に広がるチッソの水俣工場 70



視力も奪われた少女 62



水銀排水の集積地 60

写真 桑原史成

ホールプログラム

A シリーズ「私と水俣病」 患者さんのお話から

水俣病患者と家族の体験談と
それに即して話されることは。

①10月13日(金)夜7時～9時



夏田美智子
水俣病患者
大阪府在住
職業紹介業



田ロランディ
作家
文章創作講座主宰
近著『水俣 天地への祈り』

②10月15日(日)昼2時～4時



加賀田清子
胎児性水俣病患者
「おるげのあ」入所
「きぼう・未来・水俣」メンバー



柳田邦男
ノンフィクション作家
元・環境省水俣病懇談会委員
著書『マッハの恐怖』

③10月17日(火)朝10時～12時



川本愛一郎
水俣病患者家族
作業療法士
デイサービスセンター所長



米本浩二
作家
元・毎日新聞記者
近著『水俣病闘争史』

④10月21日(土)昼2時～4時



吉永理巳子
水俣病患者
水俣病を語り継ぐ会
本願の会(水俣)



杉田俊介
批評家
「対抗言論」編集委員
近著『男がつらい!』

⑤10月22日(日)昼2時～4時



上野真実子
水俣病患者家族
児童指導員
元・小学校教員



木村友祐
作家
『海猫ソリーハウス』ですば
る文学賞

⑥10月28日(土)昼2時～4時



丹木幸美
水俣病患者
千葉県在住
労働組合役員



高山文彦
ノンフィクション作家
「火花」で大宅壮一ノンフィ
クション賞

⑦10月29日(日)昼2時～4時



原武千潮
水俣病患者
愛知県在住
自動車整備業



三砂ちづる
疫学
津田塾大学教授
著書『オニババ化する女たち』

⑧11月3日(金・祝)昼2時～4時



緒方正実
水俣病患者
建具師
資料館「語り部の会」会長



枝元なほみ
料理研究家
「チームむかご」代表
著書『捨てない未来』

⑨11月7日(火)朝10時～12時



小笹 恵
水俣病患者
大阪府在住
元・水俣病関西訴訟原告



小松原織香
環境哲学
大阪公立大学客員研究員
近著『当事者は嘘をつく』

⑩11月10日(金)夜7時～9時



佐藤スエミ
水俣病患者
低農薬果樹栽培
現行訴訟原告団長家族



斎藤美奈子
文芸評論家
「文章読本さん江」で小林
秀雄賞



水俣・明治大学展ホールプログラム会場(2010年)

B シリーズ 水俣から考える

水俣病と現代社会を結ぶキーワード。

①10月8日(日)昼2時～4時「まち・地域」



吉永利夫
水俣病を語り継ぐ会
元・水俣病センター相思社
常務理事



開沼 博
社会学、東京大学准教授
『フクシマ論』で毎日出版
文化賞

②10月20日(金)夜7時～9時「真偽・虚実」



高峰 武
元・熊本日日新聞論説主幹
水俣病研究会(熊本)
著書『水俣病小史』



森 達也
映画監督
代表作に『A』『A2』
最新作『福田村事件』

③10月27日(金)夜7時～9時「経済・社会」



緒方正人
水俣病患者、漁師
講演集に「チッソは私で
あった」



中島岳志
政治学、東京工業大学教授
「中村屋のボース」で大佛
次郎論壇賞

④10月30日(月)夜7時～9時「祈り」



吉永理巳子
水俣病患者
本願の会(水俣)
水俣病を語り継ぐ会



島蘭 進
宗教学
東京大学名誉教授
著書『国家神道と日本人』

⑤10月31日(火)朝10時～12時「食」



杉本 肇
水俣病患者家族
漁師
芸人



藤原辰史
農業史
京都大学准教授
著書『ナチスのキッチン』

⑥11月4日(土)昼2時～4時「差別・偏見」



郡山リエ
水俣病患者家族
神奈川県在住
元・福祉施設職員



牛島佳代
社会学
愛知県立大学准教授
共著『水俣の経験と記憶』

⑦11月6日(月)夜7時～9時「表現・言葉」



土屋恵一郎
演劇評論家・法哲学
前・明治大学学長
著書『怪物ベンサム』



高橋睦郎
詩人
日本芸術院会員
『稽古飲食』で読売文学賞

C シリーズ 先駆者に学ぶ

水俣病を広く世に伝えた故人をしのんで。

①10月10日(火)朝10時～12時「映画監督 土本典昭」



映画「映画は生きものの記録である—
土本典昭の仕事」 藤原敏史監督、2006年/カラー94分
自作を振り返り水俣への思いを語る。

②10月24日(火)朝10時～12時「公害告発 宇井純」



友澤悠季
環境社会学
長崎大学准教授
共編『原点としての水俣病』



映画「公害原論1974」
前田勝弘監督、カラー60分
公害の歴史と状況を
宇井の解説で。

③11月5日(日)昼2時～4時「作家 石牟礼道子」



米本浩二
作家
『評伝 石牟礼道子』で読売
文学賞



坂口恭平
建築家、作家、アーティスト
石牟礼の詩で作曲
著書『0円ハウス』

④11月12日(日)昼2時～4時「医師 原田正純」



鶴田和仁
神経内科、前・潤和会記念
病院(宮崎)院長
水俣病研究会(熊本)



佐高 信
経済評論家
東北公益文科大学客員教授
著書『原田正純の道』

「水俣病」の経験から何を学ぶか。展示を超えて、さらに学びたい人のために。

D シリーズ この人と映画 「水俣病—その20年」を見る

著名な論客とともに色褪せない
土本典昭監督の秀作(1976年/カラー43分)から考える。

①10月16日(月)夜7時~9時



上田紀行
文化人類学、東京工業大学副学長
「生きる意味」で現代社会の生きにくさを考察
著書「ドライ・ラマとの対話」「愛する意味」

②10月23日(月)夜7時~9時



若松英輔
批評家、随筆家、詩人
「三田文学」編集長や東京工業大学教授を歴任
著書「常世の花 石牟礼道子」「内村鑑三」

③11月11日(土)昼2時~4時



白井 聡
政治学、京都精華大学准教授
日本現代史を論じた「永続敗戦論」で石橋湛山賞
著書「未完のレーニン」「長期腐敗体制」

E 単独プログラム

壮絶な体験と意志が形作った
希有的人間味と深い哲学。

①10月9日(月・祝)昼2時~4時



杉本 肇患者家族、漁師と
たっぷり「やうちブラザーズ」ライブ
親たちを患者にされた少年期。だからこそこのコミックバンド?!

②11月13日(月)夜7時~9時



緒方正人水俣病患者、漁師
「チッソは私であった 2023」
水俣病加害構造の全体像読み解きに挑み続ける講師の到達点。

F 土本典昭監督 「水俣」シリーズ上映

15本にのぼる土本監督の水俣病記録映画の中から、
今でも見られ続ける主要作品、一挙上映。

①10月12日(木)夜7時~9時50分



映画「水俣—患者さんとその世界」完全版
1971年/モノクロ2時間47分
「水俣」シリーズ第1作にして海外にも衝撃を与えた代表作。

②10月19日(木)夜7時~8時50分



映画「水俣—揆—生を問う人びと」
1973年/モノクロ1時間48分
73年判決後、世間の注目を集めたチッソ交渉を追う。

③10月26日(木)夜7時~9時40分



映画「不知火海」
1975年/カラー2時間33分
水銀が注ぎ込まれた海。その海あつての暮らし。

④11月2日(木)夜7時~9時



映画「水俣の凶・物語」
1981年/カラー1時間51分
「原爆の凶」で知られる丸木位里・俊夫妻の画業に迫る。

⑤11月9日(木)夜7時~8時30分



映画「わが街わが青春—石川さゆり水俣熱唱」
1978年/カラー43分
胎児性の患者たちが初めて表に出て動き始めた感動の姿。



映画「水俣病—その30年」
1987年/カラー43分
天草の胎児性の少女。30代の緒方正人。この時を切り取る。

【水俣・福岡展 2023 ホールプログラム カレンダー】

日曜日 昼2~4時	月曜日 夜7~9時	火曜日 朝10~12時	水曜日	木曜日 夜7時~各終映時	金曜日 夜7~9時	土曜日 昼2~4時
10月8日◆	10月9日◆	10月10日	10月11日	10月12日	10月13日◆	10月14日
B-① 考える「まち・地域」 吉永利夫×開沼博	E-① 祝日昼 杉本肇と やうちブラザーズ	C-① 「土本典昭」に学ぶ 映画「映画は生きもの…」	休館	F-① 映画「水俣—患者さんと…」	A-① 「患者さんのお話から」 夏田美智子×田口ランディ	
10月15日◆	10月16日◆	10月17日◆	10月18日	10月19日	10月20日◆	10月21日◆
A-② 「患者さんのお話から」 加賀田清子×柳田邦男	D-① 上田紀行と見る 映画「水俣病—その20年」	A-③ 「患者さんのお話から」 川本愛一郎×米本浩二	休館	F-② 映画「水俣—揆—」	B-② 考える「真偽・虚実」 高峰武×森達也	A-④ 「患者さんのお話から」 吉永理巳子×杉田俊介
10月22日◆	10月23日◆	10月24日	10月25日	10月26日	10月27日◆	10月28日◆
A-⑤ 「患者さんのお話から」 上野真実子×木村友祐	D-② 若松英輔と見る 映画「水俣病—その20年」	C-② 「土本典昭」に学ぶ 友澤悠季×映画「公害原論」	休館	F-③ 映画「不知火海」	B-③ 考える「経済・社会」 緒方正人×中島岳志	A-⑥ 「患者さんのお話から」 丹木幸美×高山文彦
10月29日◆	10月30日◆	10月31日◆	11月1日	11月2日	11月3日◆	11月4日◆
A-⑦ 「患者さんのお話から」 原武千潮×三砂ちづる	B-④ 考える「祈り」 吉永理巳子×島蘭進	B-⑤ 考える「食」 杉本肇×藤原辰史	休館	F-④ 映画「水俣の凶・物語」	A-⑧ 祝日昼 「患者さんのお話から」 緒方正実×枝元なほみ	B-⑥ 考える「差別・偏見」 郡山リエ×牛島佳代
11月5日◆	11月6日◆	11月7日◆	11月8日	11月9日	11月10日◆	11月11日◆
C-③ 「石牟礼道子」に学ぶ 米本浩二×坂口恭平	B-⑦ 考える「表現・言葉」 土屋恵一郎×高橋睦郎	A-⑨ 「患者さんのお話から」 小笹恵×小松原織香	休館	F-⑤ 映画「わが街わが青春」 映画「水俣病—その30年」	A-⑩ 「患者さんのお話から」 佐藤スエミ×斎藤美奈子	D-③ 白井聡と見る 映画「水俣病—その20年」
11月12日◆	11月13日◆					
C-④ 「原田正純」に学ぶ 鶴田和仁×佐高信	E-② 緒方正人 「チッソは私であった 2023」					

●全プログラムとも開場は開会の30分前です。 ●祝日(10月9日、11月3日)の開催は土曜・日曜に同じ昼2時~4時になります。 ●会場はあじびホール(100席)です。 ●チケットは展示会場とは別にもう一枚必要です。 ●◆マークのプログラムはオンライン録画配信による視聴(有料)も可能です。 ●予約や団体割引はありません。 ●満席によりお入りいただけない場合がありますので、お早めにお越し下さい。

チケット

	当日	前売	10枚つづり券	フリーパス	オンライン通し券
一般	1200円	1000円	8000円	10000円	15000円
大学生以下	600円	500円	4000円	5000円	7500円

- ・入場は閉場の30分前までです。
- ・入場券1枚で展示またはホールプログラムのいずれかに1名1回入場できます。
- ・小学校4年生以下は無料となります。
- ・高校生・中学生・小学生の団体(20名以上または1クラス以上)は、事前申し込みに関り展示鑑賞は無料となります。
- ・20名以上の団体の展示会場入場料は前売料金となります。
- ・フリーパス(お名前、顔写真入り)をお持ちの方は、会期中、展示、ホールプログラムとも何度でもお入りいただけます。
- ・身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳の提示者本人と介護者1名無料、特定医療費(指定難病)受給者証・特定疾患医療受給者証・先天性血液凝固因子障害等医療受給者証・小児慢性特定疾病医療受給者証の提示者本人は無料となります。

お求めは

- ・チケットぴあ(セブンイレブン・ファミリーマート)、ローソンチケット(ローソン・ミニストップ)でチケットをお求めになれます(所定の手数料がかかる場合があります)。店頭端末操作を簡単にするチケットぴあの「Pコード」ナンバーは、前売券、当日券ともに「994-393」、ローソンチケットの「Lコード」ナンバーは、前売券、当日券ともに「82324」です。なお、ファミリーマートでの購入は、チケットぴあWebサイトで申込み後の店頭受け取りとなります。
- ・お安くご入場いただけるつづり前売券とフリーパスは、水俣フォーラムのみの取り扱いですので、下記の方法をご利用下さい。
- ・前売券の郵送をご希望の方は、郵便局常備の郵便振替用紙に以下を明記の上、ご送金下さい。
口座番号「00120-4-398614」、加入者名「水俣フォーラム」、通信欄に券種・枚数
ご入金を確認次第、チラシ・チケットをお送りします。なお9月30日の受付印で締め切らせていただきます。
- ・来場のためのデジタルチケットはありません。



オンラインのお申し込み

- ・ホールプログラムのYouTube録画配信は、<https://minamata-fukuoka2023.peatix.com/>にアクセスしてチケットをご購入下さい。
- ・各プログラムの3日後からYouTubeで配信し、その後1週間視聴可能です。
- ・前売券と当日券の料金は来場チケットと同額ですが、10枚つづり前売券はありません。
- ・すべての配信プログラム◆を視聴可能で割安なオンライン通し券は、10月5日までに申し込み下さい。



会場

福岡アジア美術館

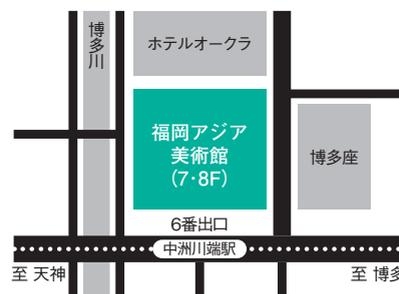
[展示] 7階 企画ギャラリー

[ホールプログラム] 8階 あじびホール

福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル7・8階 TEL:092-263-1100

JR博多駅より地下鉄「中洲川端」6番出口前

※会期後半は混雑が予想されますので、ゆったりご鑑賞いただける前半のご来場をお勧めします。



お問い合わせ

認定NPO法人

水俣フォーラム

環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けています

〒169-0075 新宿区高田馬場1-34-12-404
TEL:03-3208-3051 FAX:03-3208-3052
E-mail:mf1997@minamata-f.com



ホームページ



Twitter



Facebook

会場ボランティアへの
参加とご寄付のお願い

水俣・福岡展2023開催のためには多くの労力と資金を必要とします。ポスター貼りや事務作業、設営などの開催準備や会場運営にボランティアとしてご参加いただける中学生以上の方は、上記まで早めにご連絡下さい。説明会のご案内などの詳細資料をすぐにお送りします。ご寄付は、郵便振替口座「00120-4-398614」加入者名「水俣フォーラム」にご送金下さい。なお、ボランティアに参加された方とご寄付いただいた方には謝意を表し、「開催協力者」として会場にお名前を掲示させていただきます。